

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2020年8月14日
【四半期会計期間】	第14期第3四半期（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）
【会社名】	株式会社オークファン
【英訳名】	Aucfan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 武永 修一
【本店の所在の場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	(03) 6809-0951
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理部長 山田 圭祐
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区上大崎二丁目13番30号
【電話番号】	(03) 6809-0951
【事務連絡者氏名】	執行役員経営管理部長 山田 圭祐
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第3四半期連結 累計期間	第14期 第3四半期連結 累計期間	第13期
会計期間	自2018年10月1日 至2019年6月30日	自2019年10月1日 至2020年6月30日	自2018年10月1日 至2019年9月30日
売上高 (千円)	4,662,387	5,085,876	6,636,469
経常利益 (千円)	640,630	604,780	672,114
親会社株主に帰属する四半期(当期) 純利益 (千円)	426,431	330,698	327,178
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	553,978	5,579,883	304,570
純資産額 (千円)	3,473,419	8,801,830	3,222,038
総資産額 (千円)	5,888,240	14,204,886	5,515,508
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	42.70	32.26	32.54
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	40.62	31.96	31.22
自己資本比率 (%)	58.7	61.9	58.2

回次	第13期 第3四半期連結 会計期間	第14期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年4月1日 至2019年6月30日	自2020年4月1日 至2020年6月30日
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失( ) (円)	5.17	31.61

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動については、以下のとおりであります。

第1四半期連結会計期間において、株式会社オークファンインキュベートは新規設立により子会社となり、第2四半期連結会計期間において、オークファンインキュベートファンド1号投資事業有限責任組合は新規設立により子会社となったため、連結の範囲に含めております。この結果、2020年6月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社5社により構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の当社グループへの影響に関しましては、3月に一時的な影響を受けたものの経営成績に与えるマイナスの影響は限定的と考えておりますが、引き続き今後の動向を注視してまいります。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当社グループは、「あらゆる人が、あらゆる場所で、あらゆるモノを売り買いできる新たな時代を創る」というミッションを掲げ、「グローバルな循環型消費社会の先駆者であり続ける」というビジョンのもとに、在庫に悩む企業の「主治医」として流通を最適化するべく、AIと膨大な蓄積データを用いて在庫価値を可視化・最適化する在庫価値ソリューション事業、滞留商品の流通を支援する商品流通プラットフォーム事業及び、事業投資活動等を行うインキュベーション事業を展開しております。

当社グループは、消費者に届けられることなく廃棄される約22兆円の法人在庫( )に着目し、創業来蓄積した大量の商品実売データを基に、これらの在庫を「適切な価格で」「適切なマーケットに」お届けする支援を行ってまいりました。EC関連企業を子会社化したことにより、相場データのみならず自ら積極的に流通に関与するマーケットプレイス市場への本格展開も果たしてまいりました。

このような中、商品在庫廃棄年間22兆円の巨大市場の攻略に向け、当連結会計年度より商品流通プラットフォーム事業及び在庫価値ソリューション事業の本格的展開・加速に向け、一層の事業推進を行ってまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は5,085,876千円(前年同四半期比9.1%増)、営業利益は616,210千円(前年同四半期比4.7%減)、経常利益は604,780千円(前年同四半期比5.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は330,698千円(前年同四半期比22.4%減)となりました。

また、在庫に悩む企業の「主治医」として流通の最適化を行なう在庫価値ソリューションの提供及び流通の最適化を目的とした組織運営・経営管理体制の構築に伴いまして、2020年9月期より報告セグメントをこれまでの「メディア事業」「マーケットプレイス事業」「ソリューション事業」「インキュベーション事業」の4セグメントから、「在庫価値ソリューション事業」「商品流通プラットフォーム事業」「インキュベーション事業」の3セグメントへ変更いたしました。

そのため、前年同四半期比については、前第3四半期連結累計期間の数値を報告セグメント変更後の数値に組み替えて比較を行っております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (在庫価値ソリューション事業)

当セグメントは、企業が保有する在庫価値の可視化・最適化等を推進するソリューションを主として提供する当社グループの基盤の一つとなるセグメントであります。

当社が保有する流通相場データを活用した「オークファンプロPlus」や、複数のEマーケットプレイスへの同時出品・在庫連動等が可能なASPサービス「タテンボガイドNEXT」等においては引き続き在庫価値の可視化・最適化ソリューションとして拡販を継続した一方で、広告宣伝費の投下を中心とした事業投資を継続的に実施している影響により、売上高1,462,550千円(前年同期比4.3%増)、営業利益283,363千円(前年同期比15.5%減)となりました。

#### (商品流通プラットフォーム事業)

当セグメントは、企業の在庫・滞留商品等の流通を支援しており、複数のマーケットプレイスの運営や流通を加速させる人材育成スクールの運営等を実施しております。

法人向け商品流動化支援事業「リバリュー」、国内最大級のBtoB仕入れサイト「NETSEA」、社会貢献型サブスクリプションサービス「Otameshi」及びオークション教育・個別サポートサービス「オークファンスクール」それぞれにおいて積極的な投資・成長に向けた施策の実行を継続しております。2020年4月には「NETSEA」で月間流通額の過去最高流通額(月間12.6億円)を記録、「リバリュー」では過去最高益を記録いたしました。また連結子会社SynaBizにおいて企業の在庫再流通を促進することを目的に中古品を中心とした仕入れ・販売事業を新たに開始いたしました。

これらの結果、売上高3,128,931千円(前年同期比15.0%増)、営業利益192,652千円(前年同期比105.7%増)となりました。

(インキュベーション事業)

当セグメントは、事業投資活動を通じて、当社が中長期に亘り競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とした事業セグメントであります。

営業投資有価証券の売却及び、投資先企業へのコンサルティング等を実施しており、2020年6月には大型の営業投資有価証券の売却を行いました。

これらの結果、売上高606,974千円(前年同期比5.6%増)、営業利益407,435千円(前年同期比15.6%減)となりました。

出所：平成28年度法人企業統計(財務省)などを基に当社試算

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況とそれらの要因は次のとおりです。

資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、14,204,886千円(前連結会計年度末は5,515,508千円)となりました。

流動資産は、12,908,770千円(前連結会計年度末は4,042,482千円)となりました。主な要因といたしましては、受取手形及び売掛金が341,535千円減少したものの、現金及び預金が1,024,544千円増加、商品が245,636千円増加、投資先である㈱サイバーセキュリティクラウドの上場に伴う株式の時価評価による影響により営業投資有価証券が7,791,569千円増加した結果であります。

固定資産は、1,296,115千円(前連結会計年度末は1,472,093千円)となりました。主な要因といたしましては、ソフトウェアが56,341千円増加、繰延税金資産が120,032千円減少、のれんが86,351千円減少した結果であります。

繰延資産の計上はありませんでした(前連結会計年度末は931千円)。要因といたしましては、社債発行費が931千円減少した結果であります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、5,403,056千円(前連結会計年度末は2,293,469千円)となりました。

流動負債は、2,438,385千円(前連結会計年度末は1,716,799千円)となりました。主な要因といたしましては、短期借入金が883,333千円増加、未払法人税等が41,614千円増加、1年内償還予定の社債が125,000千円減少、1年内返済予定の長期借入金が70,217千円減少、買掛金が37,118千円減少した結果であります。

固定負債は、2,964,670千円(前連結会計年度末は576,670千円)となりました。主な要因といたしましては、繰延税金負債が2,259,778千円増加、長期借入金が126,267千円増加した結果であります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、8,801,830千円(前連結会計年度末は3,222,038千円)となりました。主な要因といたしましては、投資先株式の時価評価によりその他有価証券評価差額金が5,247,704千円増加、利益剰余金が330,698千円増加した結果であります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,800千円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,469,400	10,469,400	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	10,469,400	10,469,400	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2020年8月1日から当四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれていません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日	-	10,469,400	-	861,157	-	861,027

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 216,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,249,900	102,499	-
単元未満株式	普通株式 2,700	-	-
発行済株式総数	10,469,400	-	-
総株主の議決権	-	102,499	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて自社保有の自己株式であります。  
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には、自己株式92株が含まれております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社オークファン	東京都品川区上大崎二丁目13番30号	216,800	-	216,800	2.07
計	-	216,800	-	216,800	2.07

- (注) 当第3四半期会計期間末の自己株式は、216,892株であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,354,496	2,379,040
受取手形及び売掛金	1,011,730	670,194
営業投資有価証券	1,243,962	9,035,532
商品	134,554	380,190
仕掛品	974	-
貯蔵品	2,510	747
未収入金	213,232	213,492
その他	138,726	261,665
貸倒引当金	57,704	32,092
流動資産合計	4,042,482	12,908,770
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物(純額)	57,569	52,080
工具、器具及び備品(純額)	36,396	31,590
その他(純額)	3,098	6,420
有形固定資産合計	97,064	90,092
<b>無形固定資産</b>		
のれん	391,289	304,937
ソフトウェア	425,008	481,350
ソフトウェア仮勘定	49,630	54,045
その他	1,442	1,262
無形固定資産合計	867,371	841,596
<b>投資その他の資産</b>		
長期貸付金	54,361	46,746
繰延税金資産	277,724	157,692
その他	175,571	159,987
投資その他の資産合計	507,657	364,427
固定資産合計	1,472,093	1,296,115
<b>繰延資産</b>		
社債発行費	931	-
繰延資産合計	931	-
資産合計	5,515,508	14,204,886
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
買掛金	250,301	213,183
短期借入金	300,000	1,183,333
1年内償還予定の社債	125,000	-
1年内返済予定の長期借入金	398,986	328,769
未払法人税等	107,177	148,791
未払金	332,468	296,049
ポイント引当金	3,862	1,139
その他	199,003	267,119
流動負債合計	1,716,799	2,438,385
<b>固定負債</b>		
長期借入金	572,183	698,450
繰延税金負債	-	2,259,778
その他	4,487	6,442
固定負債合計	576,670	2,964,670
負債合計	2,293,469	5,403,056



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	861,157	861,157
資本剰余金	831,997	831,997
利益剰余金	1,727,899	2,058,597
自己株式	203,171	203,171
株主資本合計	3,217,883	3,548,581
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,385	5,238,319
その他の包括利益累計額合計	9,385	5,238,319
新株予約権	7,130	7,038
非支配株主持分	6,410	7,890
純資産合計	3,222,038	8,801,830
負債純資産合計	5,515,508	14,204,886

## (2)【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
売上高	4,662,387	5,085,876
売上原価	2,273,974	2,770,202
売上総利益	2,388,412	2,315,674
販売費及び一般管理費	1,741,830	1,699,463
営業利益	646,582	616,210
営業外収益		
受取利息及び配当金	645	688
為替差益	235	-
助成金収入	570	665
その他	4,076	4,518
営業外収益合計	5,526	5,872
営業外費用		
支払利息	6,690	5,925
その他	4,788	11,377
営業外費用合計	11,478	17,302
経常利益	640,630	604,780
特別利益		
子会社株式売却益	66,373	-
新株予約権戻入益	375	92
特別利益合計	66,748	92
特別損失		
固定資産除却損	20,590	0
減損損失	35,727	-
賃貸借契約解約損	-	14,699
その他	4,230	-
特別損失合計	60,547	14,699
税金等調整前四半期純利益	646,831	590,172
法人税、住民税及び事業税	172,879	199,861
法人税等調整額	44,237	58,132
法人税等合計	217,117	257,994
四半期純利益	429,713	332,178
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	426,431	330,698
非支配株主に帰属する四半期純利益	3,282	1,480
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	124,264	5,247,704
その他の包括利益合計	124,264	5,247,704
四半期包括利益	553,978	5,579,883
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	550,696	5,578,403
非支配株主に係る四半期包括利益	3,282	1,480

【注記事項】

(追加情報)

(新型コロナウイルスの感染拡大が会計上の見積りに与える影響)

新型コロナウイルス感染症の収束時期などを想定することは困難であるものの、現時点で同感染症による当社グループの業績に与えるマイナスの影響は限定的であると仮定して会計上の見積りを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、当座貸越契約を締結しております。

当四半期連結会計期間末における当座貸越契約に係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
当座貸越極度額の総額	700,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	300,000千円	1,000,000千円
差引額	400,000千円	200,000千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年10月1日 至2020年6月30日)
減価償却費	200,776千円	175,503千円
のれんの償却額	113,695千円	86,351千円

(株主資本等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)3
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,338,873	2,711,582	574,638	4,625,094	37,292	4,662,387	-	4,662,387
セグメント間の内部 売上高又は振替高	63,794	9,420	-	73,215	4,395	77,610	77,610	-
計	1,402,667	2,721,003	574,638	4,698,309	41,687	4,739,997	77,610	4,662,387
セグメント利益又は 損失( )	335,192	93,654	482,939	911,786	7,740	904,046	257,463	646,582

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システムアプリケーションの企画・開発・運用事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失( )の調整額 257,463千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に、「在庫価値ソリューション」セグメントにおいて、のれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。当該事象によるのれんの減少額は、34,980千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益及び包 括利益計算 書計上額 (注)2
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,354,774	3,124,126	606,974	5,085,876	-	5,085,876
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107,775	4,804	-	112,579	112,579	-
計	1,462,550	3,128,931	606,974	5,198,456	112,579	5,085,876
セグメント利益	283,363	192,652	407,435	883,451	267,240	616,210

(注)1. セグメント利益の調整額 267,240千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

### 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの区分方法の変更)

当社は第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しております。当社の報告セグメントは、従来、「メディア事業」「マーケットプレイス事業」「ソリューション事業」「インキュベーション事業」の4事業区分としておりましたが、当期より在庫に悩む企業の「主治医」として流通の最適化を行なう在庫価値ソリューションの提供及び流通の最適化を目的とした組織運営・経営管理体制の構築に伴いまして、報告セグメントを第1四半期連結会計期間より、「在庫価値ソリューション事業」「商品流通プラットフォーム事業」「インキュベーション事業」の3事業区分に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益	42円70銭	32円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	426,431	330,698
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	426,431	330,698
普通株式の期中平均株式数(株)	9,986,444	10,252,536
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	40円62銭	31円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	-	-
普通株式増加数(株)	510,735	95,375
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月14日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

指 定 社 員      公認会計士      木 村 直 人      印  
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員      公認会計士      藤 田 憲 三      印  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2019年10月1日から2020年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2020年4月1日から2020年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年10月1日から2020年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オークファン及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。